

## 報告事項

### 1. 平成30年度事業報告・公益目的支出計画実施報告の件

#### I 平成30年度事業報告

##### 1. 事業内容

###### (1) 広報事業

###### 1. 機関誌発行事業

月刊「畑地農業」N0713号（4月）～724号（3月）を発行した。

発行部数：400部 購読部数：170部

###### 2. ホームページ提供事業

畑地農業振興会ホームページを逐次更新し、本会の業務内容の発信に努めた。

<http://www.hatasin.or.jp>

###### (2) 調査研究事業

###### 1. 自主研究事業

次の課題とし、助成額は30万円とした。

課題：「高品質化を目指したトマトの水耕ストレス栽培方法の確立」

研究担当者および研究代表者：伊藤健吾 准教授（岐阜大学応用生物科学部）

###### 2. 海外学術調査交流事業

海外の国や組織と畑地農業基盤整備に関する技術交流をすることにより、双方の技術レベルの向上を図ることとしている。本年度は、以下の活動を行った。

1) 日本ICID協会の活動に協力し会費を支出した。

2) 2018年日華農業水利技術検討会に参加し、塩水浸入阻止型地下ダムの塩水管理について発表を行った。

3) 台湾農田水利会一行31名の研修団が来日し、茨城県、静岡県の農業農村整備事業等を案内し意見交換会を行った。

###### 3. 畑地かんがい研究集会事業

隔年開催であり、今年度は開催していない。

###### (3) 資格認定事業

###### 1. 畑地かんがい技士養成講習・資格認定事業

畑地農業振興のため、畑地かんがい技術をはじめ、土壌、作物、営農理論など幅広い関連知識を講習し、高度な技術を有する畑地かんがい技士を養成する。

1) 畑地かんがい技士養成講習会：平成30年9月10日～9月14日の間、「機械振興会館」（東京都港区芝公園3-5-8）で開催した。引き続き、技士登録資格認定試験を実施し、有資格者として49名を認定した（認定試験受験者数66名）。

2) 「畑地かんがい情報通信技術活用調査及び普及推進業務」を農林水産省から請負、上記養成講習会にあわせて実施した。

注) 畑地かんがい技士補養成講習会は、平成22年度より募集を廃止した。ただし、既に取得済みの本資格は存続する。

## 2. 畑地かんがい技士、技士補の登録業務

1) 本年度の畑地かんがい技士及び畑地かんがい技士補の新規及び更新登録を実施した。

		平成30年10月1日登録（人）	平成31年3月1日登録（人）	合計（人）
新規登録	技士	10	39	49
	技士補	—	—	—
更新登録	技士	37	219	256
	技士補	45	15	60
合計		92	273	365

平成31年3月31日現在の全体登録者総数（ ）は前年度

技士：1,532名（1,533）

技士補：338名（367）

計 1,870名（1,900）

2) 畑地かんがい技士、技士補登録者名簿（平成30年度版）を作成した。

## (4) 調査研究受託事業

### 1. 受託調査研究事業

平成30年度に国等からの請負により実施した調査検討業務・事業は6件であり、内容に応じて学識経験者からなる検討委員会等を組織し、現地調査・検討会等を実施し、成果を取りまとめて報告書をそれぞれに提出した。

### 2. 受託機器性能検討事業

旭有機材(株)を代表にして本会、農研機構農村工学部門など5者が、課題「小口径高圧パイプラインシステムの圧力監視・漏水事故原因診断・対策技術の開発」で農林水産省の平成30年度官民連携新技術研究開発事業補助金を受けて調査研究を行った。

### (5) 図書出版事業

在庫既出版物、「HATASIN on demand BOOKs」の販売を行った。

## 2. 各種委員会の開催状況

1) 畑地かんがい技士登録資格認定委員会 平成30年11月9日

## 3. 会員の状況

	平成29年 4月1日現在	平成30年 4月1日現在	平成31年 4月1日現在
会社会員	9	9	9
団体会員(A)	3	3	3
団体会員(B)	0	0	0
特別会員(個人)	29	30	35
計	41	42	47

平成30年度

入会 特別会員(個人) 有森正浩、阿南光政

令和元年度(平成31年度含む)

入会 特別会員(個人) 川西雅俊、小林隆信、矢野均